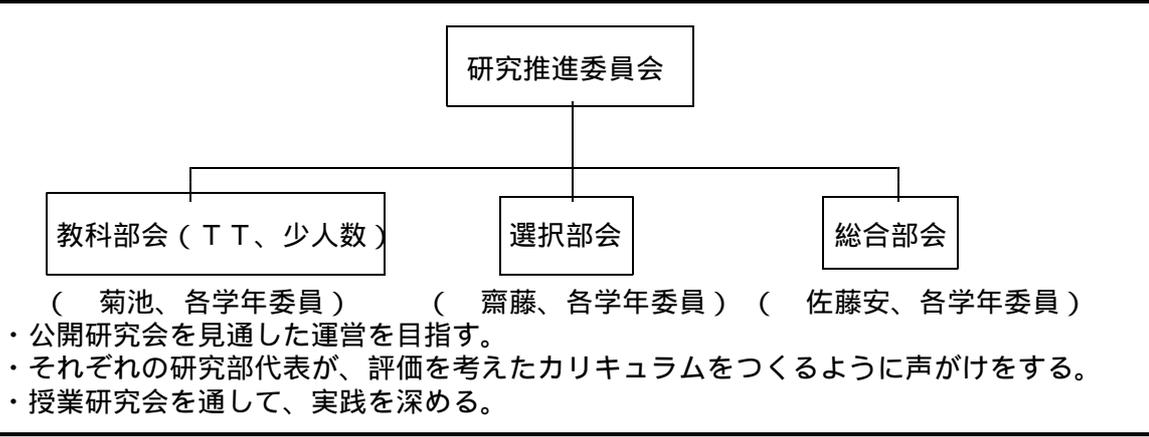
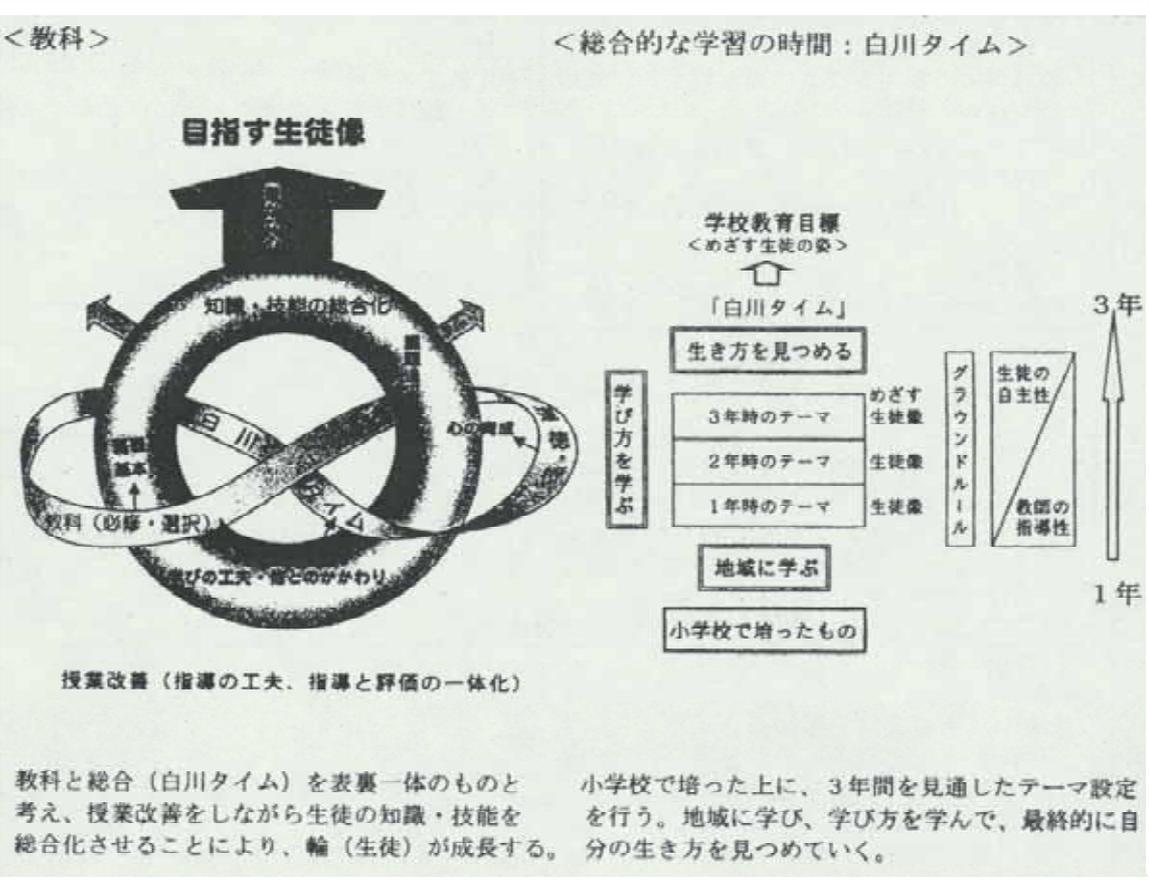


学校名	山形市立第七中学校 山形市天神町2520番地 TEL023-684-7555 FAX023-684-6459		校長	武田 純成
			研究主任	齋藤 守
研究主題	他と関わりながら、課題を解決する生徒を目指して －豊かな心を育む授業の実践を通して－ (2年次)			
昨年度の成果と課題	成果 ・各教科、総合に関して目指す生徒像を掲げて取り組んだ。 ・各教科のカリキュラム作成と観点別評価規準を作成した。 ・総合学習では「つきたい力」を明らかにし実践できた。 ・「じょうずな関わり合い」を意識して、手立てをとった。 ・授業改善のために「授業のキーワード」や「授業評価」を行った。		課題 ・各教科のカリキュラムや観点別評価規準の見直しを行い、オリジナルなものを作る。 ・評価基準をつくり、検討をする。 ・選択教科では、内容を生徒に提示して選択できなかった。 ・総合学習では、3年間のビジョンを持った展開を図る必要があった。	
				
今年度の重点	今年度の重点 1. 「人との良い関わり」のために、授業改善をしながら実践を深めていく。そのことが副題の「豊かな心」を育める人間関係づくりや学級づくりへとつながっていく。 ・今年度も「授業のキーワード」を立てる。説明中心の授業からの脱却を図る。 2. 教科カリキュラムと評価規準の見直し、選択教科の評価規準を作成する。 3. 評価基準の作成と検討を行う。 4. 教科ごとの評価の観点と評価方法の検討を行う。			
具体的内容	<教科> 普段の授業で実践を深める。 ・単元全体をどう創るのか。 ・学習指導案の中に評価規準と基準を載せ、指導と評価の一体化を図る。 教科部会での話し合いを深める。 ・良い関わり合いとは、教科でどう考え、どんな手だてをとろうとするのか。 評価について ・評価方法の工夫や多様な視点からの評価を行う。 ・評価のための基礎資料や記録の蓄積に努める。 ・定期テスト問題や実力テスト問題について、教科部会を開いて吟味する。 <選択教科> 選択のさせ方は、授業の内容を生徒に先に提示して、それを基に選ばせる。 評価については、内容に沿って評価規準を作成する。 <総合的な学習> 3年間のビジョンを持った展開を図る。 「目指す生徒像」「つきたい力」をはっきりもつ。 1年のサイクルを3つに分けて考える。 4月 ~ 5月の修学旅行・宿泊研修までの期間：そこでの内容 ~ 11月までの期間：学年のオリジナルな内容 12月 ~ 3月までの期間：次年度の修学旅行・宿泊研修での内容			

研究組織



研究構想図



研究の計画

4, 5月	研究主題や内容の検討、決定
5月27日	授業研究会 齋丸(技術) 武田(理科) 齋藤(社会)
6月20日	授業研究会 菊池(音楽) 秋葉(数学) 伊藤(美術)
7月	校内研全体研(県外研修報告)
7月か8月	授業研究会 庄司(国語) 佐藤安(英語) 丹(家庭)
9月	授業研究会 新田(英語) 大沢(社会) 尾形(数学)
11月21日	市教委訪問
2月	校内研全体研(県外研修報告、来年度の研究について)